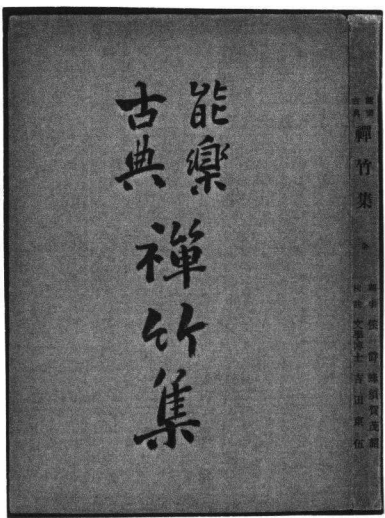


吉田東伍 トウゴ 歴史地理學者、能樂研究家、文學博士。文久四年四月十四日、越後國生乳、大正七年一月二十一日歿（八十四）。舊姓旗野、字震卿。筆名吉田東、吉田洛城、孤負子、日本居士、松雲生、樂城、樂浪逸民、洛城、洛城生、洛城逸民、珠山、落城、落後生、蟠齋生、蟠齋生等。略歴 トウゴ 史學を修め、『讀賣新聞』等の史論を發表。明治二十五年早稻田大學教授。獨力で完成した『大日本地名辭書』が有名。また能樂の透詣深く、『能樂世阿彌十六部集』（明治四十二年十一月十二日能樂會）、『能樂古典禪竹集』（大正四年二月二十日能樂會）等を板訂出版し、『近代能樂研究』を著す。

他に『徳川政教考』全二冊（上巻、明治十七年八月二十日、下巻、九月二十八日富山房書店）『富山房叢書』（『維新史八講』（明治四十二年九月十五日富山房）、『地理的日本歴史』（大正二年十月二十五日南北社）、『生活と趣味の日本文明史話』（大正四年六月十日廣文堂書店）、『維新史八講と徳川政教考』（大正七年七月十五日富山房）、『日本朝鮮比較史話』（大正十二年八月十五日國史講習會）『國史講習會録』（『明治史』全二冊）上・解脫（二年六月四日、下・七月四日早稲田大學出版部）『日本時代史』（等）。



他に『徳川政教考』全二冊（上巻、明治十七年八月二十日、下巻、九月二十八日富山房書店）『富山房叢書』（『維新史八講』（明治四十二年九月十五日富山房）、『地理的日本歴史』（大正二年十月二十五日南北社）、『生活と趣味の日本文明史話』（大正四年六月十日廣文堂書店）、『維新史八講と徳川政教考』（大正七年七月十五日富山房）、『日本朝鮮比較史話』（大正十二年八月十五日國史講習會）『國史講習會録』（『明治史』全二冊）上・解脫（二年六月四日、下・七月四日早稲田大學出版部）『日本時代史』（等）。